

1. 評価報告概要表

評価確定日

平成21年1月30日

【評価実施概要】

事業所番号	1570302214		
法人名	社会福祉法人 上越寿会		
事業所名	グループホーム てらの桜園		
所在地	新潟県上越市板倉区久々野2778-2 (電話) 0255-81-4433		
評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成	20年	12月6日

【情報提供票より】(20 年 11 月 14 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 2 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計 9 人	
職員数	9 人	常勤 8人、非常勤 1人、常勤換算 8.7人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	4階	建ての	2 階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	21,000~ 円	
敷金	有(円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無		有 無
食材料費	朝食	250 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	50 円
	または1日あたり			円

(4) 利用者の概要 (20 年 11 月現在)

利用者人数	9 名	男性 3 名	女性 6 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名
要介護3	4 名	要介護4	1 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 84.6 歳	最低 71 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	上越地域医療センター病院、水野歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは上越市郊外の中山間地にある。統合され、廃校となった4階建ての小学校の2階部分を改築している。小学校だったことから、地域の人にとって馴染みのある建物であり、地域の避難所としても指定されている。また、建物の4階部分は体育館で、敷地内のグラウンドと共に地域に活用されており、ホームへの地域の認知度は高い。
 そのような中、管理者及び職員は、地域住民との交流を工夫し、地域への働きかけを年々発展させてきている。一方、地域には高齢者も多く生活しており、ホームは地域の社会資源として、認知症への理解普及とケアの相談窓口としての役割を担ってきている。
 管理者と職員は、利用者の思いや暮らし方の希望や意向の把握に努め、本人の思いを共感し、一人ひとりに沿ったケアを実践している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価結果を踏まえて、特に地域との交流に力を入れ、積極的に取り組んできた。老人会の活動への参加や地元小学校との交流、回数は少ないが地域住民が参加する運営推進会議の開催など、地道に取り組んでいる。「食事を楽しむ支援」では、以前に感染性胃腸炎が発生した経緯を踏まえて、衛生・安全面から検討し、事業所の方針として日々の食事作り(調理)には利用者は参加していないが、時には、ギョウザ作りなど利用者と一緒に調理をする機会を提供している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営者、管理者、職員は評価の意義を理解している。今回の自己評価にあたって、職員全員で評価をし、集約し、時間をかけてまとめた。ホームに求められているサービス内容の大きさを知ることができたと感想があった。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は年3、4回の開催である。会議では、評価の報告や取り組みについての話し合いが行われている。委員からは事業所に対する地域の期待や、ボランティア活動への取り組みについての報告を受けて話し合っており、運営推進会議をサービスの向上に活かしている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>事業所の玄関には「意見箱」を設置したり、7月に家族同士の集まりの場を企画するなど、意見等を言ってもらえるような機会や仕組み作りにも努めている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>統合した小学校の校舎を活用した事業所であるため、地域には事業所の存在が広く知れ渡っている。敷地内にあるグラウンドでは、地域の行事に活用されたり、4階部分が体育館で学童や老人会など地域に開放されており、事業所と地域との関わりを持つ機会がある。また、近所の方が野菜を持ってきたりして、遊びに来てくれることもある。今後、この地域の方がサービスを利用するようになれば、地域との連携がより深まる環境と思われる。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「すこやかに老いていただくために」という法人の基本理念をもとに、自分らしく自信を持っていきいきと生活するとともに、地域住民との交流を保ちながら生活できるよう支援している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者および職員は、日々のケアを振り返る機会として、職員間で話し合いの場を持って意見交換を重ね、理念を共有し、実践に取り組んでいる。		
2 - 2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえようように取り組んでいる	家族には、訪問時や電話等折に触れてホームの理念を伝えている。また、2ヶ月に1度、生活の様子を記したホーム独自の広報を発行している。さらに年2回、地域住民に対して、法人の広報に事業所の暮らしの様子の記事を入れ、ホームの役割や目的などの理解が深まるよう取り組んでいる。		ホームの存在は地域に認知されている。ホームの理念や役割を地域に理解してもらえよう取り組みをしているが、さらに継続して行くことを期待したい。
2. 地域との支えあい					
		地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民の地域活動時の休憩所としてホームを提供したり、草取りを依頼したり、老人会主催のレクリエーション活動への参加、小学校との交流活動を開始したりと、地域との交流活動を活発化させている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は評価の意義を理解している。今回の自己評価にあたって、職員全員で評価をし、集約し、時間をかけてまとめた。サービスの求められている内容の大きさを知ることができたと感想があった。前回の評価をふまえ、地域との交流に積極的に取り組み、サービスの質の向上に活かしている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年3、4回の開催である。会議では、評価の報告や取り組みについての話し合いが行われている。委員からは事業所に対する地域の期待や、ボランティア活動への取り組みについてなどの報告を受けて話し合っており、運営推進会議をサービスの向上に活かしている。		会議では、事業所の報告や、委員からの意見、助言、新たな課題等が議題に上がり、職員と委員の意見交換が双方向的に行われている。今後、定期的開催すること、この会議内容について、家族や訪問された方にも開示する機会を作ることを期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	板倉区総合事務所の職員や地域包括支援センター職員が運営推進会議のメンバーであることから、連絡や相談等を行い、サービスの質の向上に努めている。		市の担当者との連絡や相談を日頃から積極的に行い、連携を深め、よりサービスの質の向上に取り組むことを期待したい。
6 - 2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者および職員は、利用者に対して強制しない言葉がけや対応をこころがけ、虐待行為をしないことを意識するよう日々話し合いを持っている。また、同一法人の特別養護老人ホームの研修及び委員会に加わる計画を考えている。		同一法人の特別養護老人ホームにおける虐待についての取り組みにホーム職員も参加する計画があり、実施を期待したい。また、ホーム独自でも「認知症高齢者の虐待」について研修会を開催し、より虐待防止について職員の理解浸透を深めてほしい。
4. 理念を实践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の家族は概ね月1回以上は面会に来られているので、その時に担当職員や管理者が利用者の様子を報告をしている。受診後や、健康状態が変化したときは、随時家族に電話にて報告している。また、2ヶ月に1回は日頃の様子を記事にした写真を入れたお便りを発行、3ヶ月毎に預かり金収支の報告を送付している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの玄関に「意見箱」を設置したり、家族同士の集まりの場を企画するなど、意見等を言ってもらえるような機会や仕組み作りを努めている。		
8 - 2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者は毎月ホームの運営会議に出席し、積極的に職員との関係作りを努め、意見等を聞いている。管理者も日々の業務の中や、会議等で職員の意見を聞いている。最近の職員の意見を取り入れた具体的な成果として、勤務時間体制の変更がある。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は必要最小限となるようにしている。異動があった場合は、十分な引き継ぎの機会を作ったり、新しい職員が利用者との関りの時間を持つよう業務を組むなどし、利用者へのダメージを最小限にするよう工夫している。		
9 - 2	18 - 2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが行われている	法人の各種マニュアルが整備され、職員に周知している。認知症ケアや、小規模事業所であるグループホームに合わせた独自のマニュアルも作られている。必要に応じてマニュアルの見直しが行われ、差し替えられている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じた研修、外部研修への参加等、法人として計画的に行なっている。ホームヘルパー2級研修受講の支援体制もある。ホーム内でも、毎月の運営会議開催時に、その時々課題などに対する研修や復命報告研修を行って、職員間で知識・情報を共有している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協議会に加入し、職員が研修会に参加している。また、管理者は近隣の事業所と連絡を取り合っている。		今後、市とも協力しあって、地域のネットワークを構築しサービスの質を向上させていく取り組みを期待したい。
11 - 2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は、月に1回はホームに出向き、職員との関係作りに努めている。ホームでも、同一法人の特別養護老人ホームと交流する機会を持ち、親睦と気分転換を図っている。管理者は、職員一人ひとりに関心を持ち、コミュニケーションを心がけ、無理なく業務が行えるよう配慮し、ストレス軽減に努めている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用前には、家族と共に事前にホームを訪問してもらい、利用者ひとときを過ごし、ホームの雰囲気や環境を確認してもらっている。その時は、管理者や職員は安心感を持ってもらえる対応に努めている。サービス開始後は、本人が生活に馴染めるよう関わりに工夫し、家族にも訪問を働きかけて協力をお願いしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の経験や技術を引き出す機会をもち、職員が教えてもらったり一緒に楽しんだり、励まされたりという関係が築かれている。		
13 - 2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密にし、利用者の状況を共有しながら家族と関わることにより、家族と職員の思いが重なって、利用者を支えていくための協力関係が築かれている。ホームからの依頼に対し、都合をつけて来てくれる家族が多く、職員と一緒に利用者を支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事業所独自のアセスメント様式と、センター方式アセスメント様式の一部を使い、利用者個々の思いや暮らし方の情報収集をしている。家族が訪問する機会には、家族からも意向を聞きながら、本人にとってどのような暮らし方が良いのか検討している。		
14 - 2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用開始前に事前訪問し、利用者及び家族よりこれまでの暮らし方の聞き取りを行っている。		利用後も、家族との関わりを深めながら情報を得て、本人らしい生活の構築に向けて取り組んでいるが、その情報を集積して記録に残していない。記録をまとめることにより、職員がこれまでの生活を把握し、より本人像を知ることができる。今後の取り組みに期待したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の暮らしに対する思いについて、職員全員で情報収集し、反映した介護計画を作成している。本人および家族からも意見を聞き、個別的な計画が作成されている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに介護計画の遂行状況や効果などの見直しをしている。利用者の健康状態の変化や要望、家族からの意見などがあったときは、利用者や家族と話し合い、必要に応じて見直しし、新たな計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な対応					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	天気の良い日は車で出かけ、利用者の希望に応じた目的地に行ったりしている。また、週1回、母体である特別養護老人ホームから看護師が来て、利用者の健康状態について相談したり、指示を得ている。必要に応じて連絡も取れる体制である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のうち、7名は近くの診療所がかかりつけ医となり、2名は以前のかかりつけ医を継続している。受診の付き添いは原則家族にお願いし、職員と家族とで受診前後の情報共有をしている。かかりつけ医は、利用者がグループホームで生活している状況を理解してくれており、ホームと医師の関係が構築されている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームの方針として、重度の方はサービスの対象にしていない。利用者、家族には契約前や、利用後も機会ある毎に、ホームで対応できることとできないことを説明して了解を得ている。		ホームが対応し得る最大のケアについて目安となる基準があり、本人や家族にも説明し了解を得ている。ホームが利用者に対してどんな支援ができるのかを、管理者とともに職員間で検討を行いながら、家族に対してケアの方針の話し合いを繰り返し積み重ねていくことを期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報については、記録は事務室で行い、書類も常に書庫に保管し、利用者の目にとまることのないよう日頃から意識している。サービス場面においても、職員は利用者一人ひとりに対して尊厳をもって声かけや対応を行っている。管理者は、利用者に対する職員の言葉かけが不適切でないかを常に確認している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者一人ひとりの体調や能力、望んでいるペースを尊重し、無理強いをせずに支援している。利用者のその日の希望にできるかぎり添うことができるよう、また利用者自身から選んでもらうよう、業務の中で工夫して支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片づけには、利用者も能力とやりに応じて役割分担をしている。以前に感染性胃腸炎が発生した経緯を踏まえて、衛生・安全面から検討し、事業所の方針として日々の食事作り(調理)には利用者は参加していないが、時には、ギョウザ作りなど利用者と一緒に調理をする機会を提供している。		
22 - 2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるように支援している	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しており、利用者の能力に応じてトイレの誘導の声かけや、トイレでの排泄援助を行っている。尿取りパッドの交換や回収方法も、利用者のプライドを考慮して実施している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の週の回数や入浴時間は利用者の希望に添うように努めている。毎日入浴する人もいるが、入浴したくない人には、無理やり勧めることはせず、声かけの工夫やタイミングを考え、入浴を楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員と共に利用者にも掃除をお願いするなど、一人ひとりの能力を考え役割を担ってもらっている。無理強いはず、利用者にはやりがいを持ってもらえるよう支援している。また、季候の良い時期は建物の外で散歩や日光浴をして気晴らしをしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望や様子に応じて、屋外に出る働きかけをし、散歩などを楽しんでいる。また、買い物やドライブなどの外出行事も楽しんでいる。目的でも利用者の希望に添うように馴染みの場所に出かけるなどしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
25 - 2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者および職員は、利用者への直接的な身体拘束だけでなく、動く範囲の制約や言葉による制限などの間接的な拘束についても理解しており、行わないことを当たり前のこととして認識している。		認知症高齢者の権利擁護や身体拘束に関する研修をホームで開催し、さらに継続して身体拘束をしないケアの理解の浸透と共有認識を図っていくことを期待したい。
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者及び職員は鍵をかける弊害を理解し、日中は玄関の施錠はせず、利用者の自由な暮らしを支えるよう支援をしている。不安感などから落ち着かない状況が見られる利用者には、安心できるような言葉かけや対応をしている。		
26 - 2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書やひやりはっと報告書が記録されている。事故等が発生した場合は、速やかに職員間で話し合いを行い、具体的な対応や対策を実施している。		事故等発生後、1ヶ月後や3ヶ月後など定期的に改善策を振り返る機会を設けたり、事故等の集計や分析を行い、さらなる再発防止につなげることを期待したい。
26 - 3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている	職員は、毎年法人主催の救急法の訓練に参加している。また、運営会議の際に、利用者個別の急変時の対応を想定した訓練を行っている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	災害対策のマニュアルがある。避難訓練を行い、利用者にも参加してもらっているが、年2回の実施には至っていない。地域との災害協定が結ばれ、協体制作りが進められている。ホームの建物及び敷地が地域の避難場所となっている。		避難訓練を年2回は定期的実施するとともに、地域との災害協定の具体的な内容を踏まえたさらなる防災対策が望まれる。法人の防災委員会にホーム職員も参加する予定であり、期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は、利用者一人ひとりの食事摂取総量や水分量を把握している。食事の献立は職員が作成しており、利用者の嗜好を把握しつつ、薬の弊害となる食材を使用しないなど注意している。法人の特別養護老人ホームの管理栄養士から、献立への指導助言を受けている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関および廊下は以前の小学校の雰囲気が残る造りであるが、生活感を感じられるよう、季節ごとにプランターや装飾品を置き、親しみやすい雰囲気づくりに取り組んでいる。食堂や和室、居室等の生活スペースは、小学校の教室の雰囲気はなく、壁面の腰板など木材を多用することにより、落ち着いた雰囲気となっている。食堂以外の場所にも椅子やソファ、コタツが設置されており、利用者は思い思いの場所でくつろぐことができる。		玄関ホールの雰囲気作りや、室内の掲示物の高さを再検討することなどにより、さらなる心地よい環境作りを期待したい。
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のカーテンはホームで用意しているが、その他、家族との写真や使い慣れた家具、日用品類は、利用者個々の生活スタイルに合わせて用意されている。家族の協力を得て馴染みの品物を持ち込んでもらい、本人が居心地よく暮らせるように居室づくりをしている。		